■都留重人　　高校選学で，アメリカ留学するも，日米開戦。一流の経済学者になるも，負の画を問題視，雑誌{環境と公害}創刊。
つるしげと
明治天皇没・1912＝　　東京で，都留信郎の長男に生まれる。母いよ。姉1人妹2人。
民本主義・・1916＝ 4歳：父が，同志社の先輩岡本桜に引き抜かれて，{名古屋ガス}に入社したため，一家で名古屋に移住。
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝ 7歳：名古屋市柳城幼稚園卒園。名古屋市葵小学校入学。
原敬首相暗殺1921＝ 9歳：岡本桜が{名古屋ガス}社長になる。
水平社結成・1922＝10歳：{名古屋ガス}が{東邦ガス}と改称。
関東大震災・1923＝11歳：猩紅熱から腎臓炎を併発し，入院。1年間休学する。
治安維持法・1925＝13歳：愛知県立熱田中学入学。弁論部に所属。
門本時代始・1926＝14歳：_E・F・ペンローズ夫妻を家庭教師に，英会話と英作文を学ぶ。
世界恐慌・・1929＝17歳：中学4年終了時に第八高等学校文科乙類に入学。社研，陸上部に所属。
海軍軍縮条約1930＝18歳：河本敏夫らとともに，_八高社研の一員として，日本の中国侵入に反対してストライキを起こし，治安維持法違反容疑により検挙される(反帝同盟事件)。欠席届を出していなかったため，八高は除籍される。
満州事変・・1931＝19歳：_起訴猶予で釈放されるが，日本の大学に進学できなくなったため，父の勧めで，留学を決意。ペンローズのつてで，米国ウィスコンシン州のローレンスカレッジ入学。陸上競技部とドイツ語クラブに所属。
五一五事件・1932＝20歳：必修科目の数学を免除された代わりの心理学で，教師のホレス・フリーズと知り合い(のち，共同研究の結果を，連名で雑誌に発表，最初の研究論文となる)。以後，さまざまな分野の一流の人物と出会って行く。
国際連盟脱退1933＝21歳：_修了時，リストン学長の勧めで，専攻を決めないまま，ハーバード大学に暫定的ジュニアの資格で転校。J・A・シュンペーターと出会う。
芥川直木賞始1935＝23歳：*マルクスに関する論文を提出して，バチェラーオブアーツとなり，経済学部の優秀賞を得て卒業，同期でただ一人大学院に進学し，シュンペーターのセミナーに参加，P・A・サムエルソンらと同窓になる。
二二六事件・1936＝24歳：父が，岡本桜を継いで{東邦ガス}社長になる。修士号取得。
日中戦争始・1937＝25歳：母いよが死去し，一時帰国。翌年も，婚約のため一時帰国。
第二次大戦始1939＝27歳：帰国して，和田小六(木戸幸一の弟)の長女正子と結婚後，共に渡米。
大政翼賛会・1940＝28歳：_維新後の日本の資本主義についての論文を提出して博士となり，一時帰国。ハーバード大講師になるが，
日米開戦・・1941＝29歳：小冊子「Japan's Economy under War Strain」をペンネームで発表。_日米開戦になり，
・・・・・・1942＝30歳：_第1次交換船で帰国。妻の伯父木戸幸一が重光葵に頼み，外務省嘱託になる。
創価学会検挙1943＝31歳：東大で特別講義。東京商科大学東亜経済研究所(のちの一橋大学経済研究所)嘱託研究員となる。
年金+総武装 1944＝32歳：「米国の政治と経済政策」出版。木戸に圧力かけようとする東條英機により，解雇され，都城の部隊に二等兵として入営。木戸が東條の秘書官赤松貞雄にかけあって，除隊となり，外務省勤務。
敗戦・・・・1945＝33歳：ソ連に出張。_転変後，敗戦。GHQの関係で来日したガルブレイスらと再会。木戸の予審尋問に立ち会う。
新憲法公布・1946＝34歳：連合国最高司令部経済科学局調査統計課(ESS)に勤務。{思想の科学}発行に，編集委員として参加。TVA研究懇談会を立ち上げ，日米戦争の一因が，ニューディール政策による軍備拡張とする「米国の政治と経済政策」を皮切りに，英文も含めて，多数の経済学に関する著作により，生涯，啓蒙に努める。
新憲法施行・1947＝35歳：父が日本ガス協会会長になる。_片山内閣の，安定本部総合調整委員会副委員長(次官級待遇)に任命され，経済白書の嚆矢『経済実相報告書』を執筆。財団法人になった{統計研究会}の国民所得研究部会の主査になる。国内総生産が，生産，支出，分配のどれから算出しても同じ値になる"三面等価の原則"を証明し命名。
極東裁判決・1948＝36歳：父信郎が死去。経済安定本部を辞任し，*東京商科大学経済研究所所属の教授に就任，自宅で，社会人を対象に{青広ゼミ}を始め，{平和問題談話会}にも参加。
三大事件・・1949＝37歳：その討議に基づき，{世界}に，「戦争と平和に関する日本の科学者の声明」を発表。来日したシャウプ使節団の公式顧問役になる。_中山伊知郎の後任として，新制なった一橋大学経済研究所初代所長に選出され，
朝鮮戦争始・1950＝38歳：「アメリカ遊学記」(没後，岩波新書で復刊)。昭和天皇に，若輩ながら，大内兵衛(62愛)・有沢広巳(54歳)・中山伊知郎(52歳)・東畑精一(51歳)と共に，経済学の御進講。_{経済研究}創刊。
独立回復・・1951＝39歳：第2期の日本学術会議会員に選出され，以後，6期12年。フランスでの学会出席で，_戦後初の海外出張。
ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝40歳：オックスフォードでの_国際経済学会(IEA)年次大会出席，インドのラオに招かれ，デリー大学客員教授。
自衛隊発足・1954＝42歳：エカフェ専門委員に就任，一時タイ・バンコクに滞在。翌年も再び。
国連加盟・・1956＝44歳：_一橋大学経済研究所所長を退任。ハーバード大学客員教授となり，戦後初めて渡米。
なべ底不況・1957＝45歳：_赤狩りで，上院の喚問を受け，不用心にも留学時代の友人らの名を出すも，彼らには咎められず，帰国。
ｲﾝｽﾀﾝﾄﾗｰﾒﾝ・1958＝46歳：「経済を見る眼」(岩波新書)。ブリティシュ・コロンビア大学客員教授に招聘され，バンクーバーに滞在。
美智子妃・・1959＝47歳：「経済を動かすもの」(岩波新書)。日本経済新聞によるサムエルソン招聘で通訳と案内を担当。
安保闘争・・1960＝48歳：_エール大学の客員教授になり，渡米。ハーバード大学の卒業25周年記念行事に参加後，諸大学で講義，
ｲﾀｲﾀｲ病始・1961＝49歳：_英仏独を歴訪して，帰国。
全国総合計画1962＝50歳：宮本憲一，柴田徳衛らと，*統計研究会に，後の日本環境会議の母体{公害研究委員会}を発足させ委員長。
東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ 1964＝52歳：「近代経済学の群像――人とその学説」(日経新書)，「日本の設計」。SEANZA(東南アジア及びオセアニア地域の中央銀行職員研修計画)のため，諸国出張。第2回日米民間人会議(倉敷)に出席。四日市の公害視察。
大学紛争始・1965＝53歳：再び経済研究所長就任(2年)。_国際社会科学評議会(ISSC)代表者会議(アムステルダム)に出席。都知事選に出馬要請されたが固辞。
いざなぎ景気1966＝54歳：この前後以降，内外各地で様々な会議等に出席し，講義・講演等をして行く。
美濃部都知事1967＝55歳：一橋大学小平祭にて「平和のために何をなすべきか」という講演。
霞ヶ関ﾋﾞﾙ・ 1968＝56歳：東京問題調査会発足で専門委員。_ISSCの常任理事会(パリ)で，環境破壊問題特別委員会の委員長になり，
大阪万博・・1970＝58歳：宮本，柴田らに，帰国まもない宇沢弘文も加え，_国際シンポジウム(東京)を主宰，ISSCの副会長に就任。
ﾄﾞﾙｼｮｯｸ・・ 1971＝59歳：第5回日ソ経済学者シンポジウム(モスクワ)日本側団長として参加。*欧米における，公害問題に関する諸会議に出席後，{公害研究(のち，環境と公害)}創刊。
日中国交回復1972＝60歳：「公害の政治経済学」。ジスカールデスタン大統領の招待で，国際会議{経済と人間尊重の社会}に出席。_学園紛争で学長のなり手がおらず，一橋出身者以外からは初の一橋大学長に就任するが，
石油ショック1973＝61歳：東京でのIEAの会議を主宰。_一橋出身ではないとして批判を受けるようになり，
角栄金脈辞任1974＝62歳：環境問題に関するココヨク宣言を採択したシンポジウム(メキシコ)に出席。_IEAの副会長に就任。
ｸｱﾗﾝﾌﾟｰﾙ事件1975＝63歳：_学長を退任，同大学名誉教授。以後10年，朝日新聞論説顧問。翌年にかけて『著作集』13巻刊行。
田中角栄逮捕1976＝64歳：「経済学入門」(講談社学術文庫)。{American Economic Association}名誉会員になる。
JALﾊｲｼﾞｬｯｸ・1977＝65歳：神奈川県総合開発審議会会長，日本電電公社電信電話諮問委員会会長。大阪空港裁判原告側証人尋問および反対尋問のため出廷。_日本人初となる第10代IEA会長に選出される(3年間)。
成田衝突・・1978＝66歳：再度，都知事選出馬要請あるが，断る。_『不確実性の時代』ベストセラーになる。
革新大敗北・1979＝67歳：伊東光晴・宇沢弘文らと，中国訪問。
貿易摩擦始・1980＝68歳：IEA会長として第6回コングレス(メキシコ)主宰。イタリア政府より，コメンダトーレ勲章。
・・・・・・1981＝69歳：中央電気通信サービス利用者委員会会長就任。
中曽根内閣・1982＝70歳：朝日新聞社主催国際シンポジウム{科学と人間}で司会を務める。
ﾃﾞｨｽﾞﾆｰﾗﾝﾄﾞ 1983＝71歳：前年より再々度都知事選出馬要請あるも，固辞。
・・・・・・1984＝72歳：岩波市民セミナーで，連続講義「現代経済学の群像」。
ｼﾞｬﾝﾎﾞ機墜落1985＝73歳：「現代経済学の群像」(没後，岩波現代文庫)。日本経済学者代表団の一員として中国を訪問。_朝日新聞社選社。ハーバード大学から，日本人として2人目の名誉学位を授与される。
バブル始・・1986＝74歳：明治学院大学国際学部の創設に尽力し，教授になるが，
昭和天皇没・1989＝77歳：湘南国際村協会会長に就任。やがて学内対立で，
ﾄﾞｲﾂ統一・・1990＝78歳：「地価を考える」(岩波新書)。退任を余儀なくされた。日本学士院会員に選出される。
55年体制終・1993＝81歳：
・・・・・・1996＝84歳：「日米安保解消への道」(岩波新書)。湘南国際村協会会長退任。
小泉9.11テロ2001＝89歳：_自伝『いくつもの岐路を回顧して』を出版し，
イラク戦争・2003＝91歳：「体制変革の展望」。_一橋大学経済研究所資料室に，所蔵する書簡，原稿，会議資料等約15,000点を寄贈，
・・・・・・2004＝92歳：「科学と社会――科学者の社会的責任」。_同大での{都留重人と激動の時代}展示に伴なう講演を行って，
・・・・・・2006＝93歳：前立腺がんのため，_没した。最後の著書『市場には心がない』出版。
尾高煌之助・西沢保編「回想の都留重人 資本主義，社会主義，そして環境」，Wikipedia，